

01

アスファルトタンク排気

硫黄臭、ガソリン臭

コンサル
テーションマイクロゲル
スプレー

C-SA

大型タンクでアスファルトを貯蔵する場合、常温で固まってしまうのを防ぐために、蒸気で高温に熱した状態で貯蔵します。そのため、タンク上部からベーパー（油煙）が発生し、高濃度の臭気成分が飛散。これが原因で周辺の設備が操業不能となり、カルモアへ臭気対策の依頼が出されました。

→Answer

対策にあたり、まずは現在の臭気がどこまで飛散しているのか、どこまで除去すれば問題がなくなるのか、コンサルテーションを行い目標値を設定しました。その結果アスファルトタンクのベーパー排気は、臭気濃度3,200,000であり臭気対策を行うことが非常に難しい状態であることが判明。しかし、専用のマイクロゲルの開発とコンサルテーション結果から考え出したシステムフローにより、極めて高効率に脱臭効果を発揮するシステムを設計しました。こうして月々数千万円の売り上げを出す周辺設備を再稼働させることができました。

>>結果

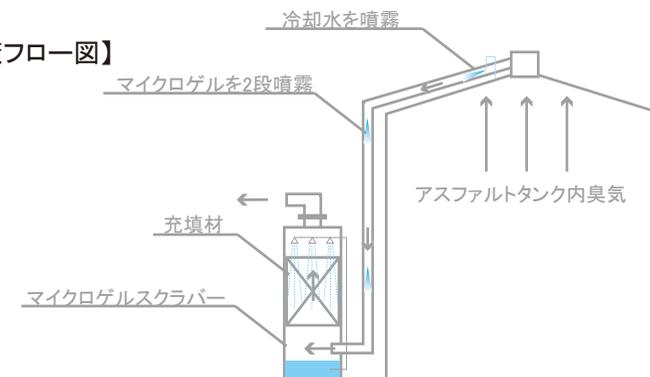
排気風量：50～150m³/min×9ライン

消臭剤マイクロゲルスプレーシステム及びスクラバーシステム

使用消臭剤：マイクロゲルC-SA

採取場所	タンクA	タンクB	タンクC
対策前臭気濃度	250,000	320,000	3,200,000
対策後臭気濃度	32,000	50,000	50,000
脱臭効率	87.2%	84.4%	98.4%

【対策フロー図】



コンサルテーション風景



アスファルトタンク臭気採取風景



スクラバー脱臭装置出口



アスファルトタンク